

令和6年度第2回名取市協働事業審査会会議録

- 1 日 時 令和6年10月5日(木)13時30分～15時00分
2 場 所 市役所6階 第1・2会議室
3 出席者 秋月委員長、中島委員、桜井委員、小畑委員、齋藤委員
事務局：小平部長、浅野課長、佐藤課長補佐兼係長、岩間主幹兼係長、森主事、
岩淵
欠席者 林委員、太田委員
4 会議概要 下記のとおり

-
- 1 開 会 進行：佐藤補佐
2 あいさつ 秋月委員長
3 審査説明
4 議 題
① 名取市協働提案事業の提案プレゼンテーション審査について
② 名取市協働提案事業の集計結果並びに選定について
5 その他
6 閉 会

3 審査説明

事務局

本日の審査は、市民提案型と行政提案型の2種類の審査となります。予算の枠のしほり等はなく、「協働提案事業」としてふさわしい事業を採択していただきたいと思います。

行政提案型のテーマにつきまして、黄色のファイルの募集チラシをご覧ください。今年度は「パラスポーツの普及」、「市民墓地公園を活用した心身の健康増進事業」の2つのテーマについて募集したところ、「市民墓地公園を活用した心身の健康増進事業」に対して1団体から提案がありました。

なお、各団体の要件審査は、事務局で事前確認を終えております。提案内容については、団体と協働する課、事務局の三者による話し合いを経て、協働が可能と合議されたものです。

次に審査会の進め方について説明します。

はじめに、提案プレゼンテーション審査について説明いたします。黄色のファイルの実施要項をお開き願います。

4実施要項に基づき、応募のあった2団体による提案プレゼンテーションを行います。各団体入れ替え制により行い、1団体15分の持ち時間で、提案プレゼンテーション7分、質疑応答5分で進めてまいります。提案プレゼンテーションには、協働する課も同席いたします。

全てのプレゼンテーション後休憩をはさみ、次第の4選定に進みます。

続きまして、審査方法について説明いたします。黄色のファイルに前回5月25日の審査会

で皆様にご承認いただいた審査基準をつけておりますので、審査基準と配布物の審査表会をご覧ください。

審査方法は、審査基準オモテ面の一番下に記載のある【審査の視点】の①から⑤をもとに、5点満点として5段階で審査をお願いいたします。団体には、提案プレゼンテーションの中で審査の視点①から⑤については項目を立てて説明していただくようお願いしております。委員個人の採点結果が3点以上であれば採用、2点以下の項目が1つでもあれば要協議または不採用とし、1人でも要協議または不採用という採点をした委員がいれば、皆様が協議のうえ最終的な判断をいただきたいと思います。また、プレゼンに対する質問は、団体及び協働する課に対して行うことが可能です。なお、記入後の審査表は2団体すべてのプレゼン終了後に回収します。

以上、審査について説明を終わります。

4 議 題

① 名取市協働提案事業の提案プレゼンテーション審査について

<プレゼンテーション>

I 特定非営利法人 地星社（協働する課：市民協働課）

なとりこどもまちづくり実験室を提案させていただきます。

地星社は地域づくり、社会づくりについて関わる人や団体を支援し、増やすことを目的として活動しているNPOで、名取、岩沼を中心に県内各地で活動しています。

名取市においてこどもファンドを実施されておりますが、大変すばらしい事業だと思います。私も子どもたちをサポートさせていただいたことがあります。

学校の部活等で組織化されているところからだと、こどもファンドへの申請が行いやすいと思います。一方で、潜在的には、地域の中で何か活動をやってみたいと思っている子はいらっしゃると思いますが、仲間づくりや企画づくりのサポートがもっとあるといいのではないかと考えております。

そこで今回の事業の目的ですが、子ども達を対象としたまちづくりワークショップを開催することで、地域での活動に関心がある子どもに参加の機会を広げたいと思います。集まった子たちが、アクションプランの作成と実行を通して、子どもだけではなく企業や市民ボランティアなど大人の方たちとも協働できるような機会を作っていきたいと考えております。

事業の概要です。内容はまちづくりのワークショップと地域を実際に歩いてみるフィールドワークを実施する予定です。最後に発表会を行います。それだけだとなかなか企画がまとまらないところがあると思うので、フォローアップの機会も作りたいと思います。

特に発表会では、子どもたちのアイデアと合うような企業や大人の方たちも参加を呼び掛けて、協働の機会にしたいと思います。また、ワークショップやフィールドワークにも市民ボランティアの方に参加していただく機会を作りたいと思います。

事業の対象となるのは、名取市在住、もしくは通学している小学5年生から高校3年生までとしております。

今回の協働のメリットは、市としては、協働の意識づくりや地域活動団体の育成支援ということを長期総合計画の中で謳い、当団体としても地域づくり・社会づくりに関わる社会の実現を目標としており、

行政の持つリソースやネットワークと、当団体の持つワークショップのスキルやノウハウを生かせることが今回の協働のメリットであると考えております。

市民のニーズと実現性は、地域の活動に関心はあるけどきっかけがなく、参加のハードルが高いと
思っている子どもが多いと感じております。子どもも結構忙しいということがあるので、ワークショップの
プログラムは一日を通したプログラムにし、日数を減らし、参加しやすいようにしました。

費用対効果ですが、子どもたちが関心をもって地域のことに関わるということで、大人も協力しようと
参加すると思うので、多様な主体の協働への広がりも併せて考えると効果としては非常に高いのでは
ないかと考えています。

事業の実施スケジュールは、夏は暑いということもあり前半は広報に時間をかけて、少し涼しくなっ
てからフィールドワークを行うにスケジュールを組んでおります。

実施費用については、申請書に書いた通りです。広報に費用をかけて、参加者が集まるようにしたい
と考えております。

<質疑応答>

委員：地域活動に関心のある潜在的な子どもは意外と多いけど、参加をするにはハードルが高いとい
うことですが、参加をするというハードルを低くするためにはどんなことを工夫すると良いと思
いますか。

団体：工夫について何か具体的にできることはないですが、市内の学校全部に広報をかけて、チラシは
1人1人の生徒たちに配布されるようにします。それから、親しみやすく、面白そうと思ってもらえ
るチラシにして、参加しやすいようにします。

委員：市民のボランティアも参加していただくところがあるが、費用にその分は入っていますか。

団体：申請書の方には入っておりません。協働提案事業とは別に、地星社の自主事業の方でファシリテ
ーション講座というものをやっております。そういった事業に参加していただいた方々に、今回の事
業に参加の呼びかけをして参加してもらおうと考えています。

委員：小学5年生から高校3年生まで対象ということでしたが、かなり興味関心や知識量とか差がある
かと思いますが、小学5年生と高校3年生と一緒に活動するにあたって何か配慮するなどの考え
はありますか。

団体：持っている知識や、関心のあることにある程度違いは出てくるかなと思います。特に上の学年に
なると、小さい子にも配慮できるかなと思いますので、特に年齢の高い子に声がけをしてもらった
り、場合によっては別の研修の場を作ったりして、うまく小さい子にも配慮できるようなやり方でや
っていきたいと考えています。

委員：活動場所はこういったところを想定していますか。

団体：ワークショップを実施する場所は、名取市文化会館を考えております。

Ⅱ 特定非営利活動法人 パートナースhipなとり(協働する課:クリーン対策課)

市民墓地公園を活用した心身の健康増進事業ということで、プレゼンテーションをさせていただきま
す。

当法人は、平成26年に名取市の市民活動団体を支援するということで設立しました。主な事業は名取市市民活動支援センターの指定管理を行っています。

今回の事業は、名取市の小塚原にある墓地公園を活用して、心身の健康増進事業です。こちらの墓地公園は、10.2ヘクタールもありまして、非常に素晴らしい公園です。ただ知名度がまだあまり高くないということで、実際に活用する姿を見せることで、周知にもつながると思います。墓地公園の真ん中は芝生広場になっていて、宇宙桜という桜が咲いています。市民のシンボルになっていけない場所だと思っています。

今回知名度の向上と市民が普段から利用することができないか、利用を通じて世代間交流や親子の触れ合いの場をつくりたいという目的で事業を考えました。

具体的な事業の内容としては、凧作り・凧あげ、絵灯籠の展示、それから健康増進として、沿路約1kmあるが、そこに標識をつければ日常的に歩く人が増えるのではないかと、それから絵灯籠だけでは足元が明るくなるだけなので、道路からも見えるところにピカボードを使い光のイラストを展示することで車からも見えるようにしたいと思っています。

事業内容は4つの事業を考えています。1つ目は凧作り。名取には凧作りを指導している先生がおり、先生に講師のお願いをして親子で凧を作るイベントを実施したいと思っています。当法人が管理している市民活動支援センターの登録団体には、外国人を支援するという団体があり、そこに声がけすることで、外国人の方の参加も見込めるとしています。凧作りは集会所、凧あげは墓地公園で実施しようと思っています。墓地公園はなだらかな斜面になっているため、凧あげに適している場所だと思っています。

2つ目は絵灯籠です。絵灯籠も親子で話しながら作れると思っています。絵灯籠は沿路に置き、沿路に距離標識をつけることによって、歩きながら距離を測って絵灯籠もみることが出来ます。距離標識は道路の交通標識ではなくて、オシャレで可愛いものにしたいなと思っています。3Dプリンターで障がい者の自助具を作っている団体がいるのでそこをお願いをしたいと思っています。絵灯籠の案の1つですが、油紙で作った耐水性のある袋に絵をかいて、中に100均一ショップで買った300円のセンサーライト入れると絵灯籠ができるとしています。ペットボトルで作成しているものもあります。どういうものを作るかは、もう少し検討しないといけないと思います。絵灯籠で沿路を飾ったらきれいだろうなと思います。

3つ目はピカボードで、こちらは私が発明したものになりますが、交互に二種類の絵を光らせることができ、道路沿いに飾るとアイキャッチになるとしています。

広報活動は、市の広報とかホームページを活用してPRを行い、色々な団体と繋がっていますので、人材を活用できるかと思っています。

市の施設を使用するため、クリーン対策課と協働できるのは非常にいいと思っています。市には情報提供・場所の提供・広報などをお願いしたいです。

成果としては、知名度が上がる、日常的に使われる、新たな交流が生まれることが成果と思っています。

スケジュールは、お盆の時と秋分の日ところで光りもの、12月に凧あげと考えております。

全体で90万円くらいかかるとは思っておりますが、当法人若干の余剰金がありますので、それを使用したいと思っています。ボランティア団体にお手伝いをお願いしようというので、有償ボランティアの分の費用を見込ませていただきました。

<質疑応答>

委員：健康増進事業のポイントはどこになるか。健康とどう関係するのか

団体：確かにそう思われるかと思いますが、太極拳やグランドゴルフなどを検討したが自分の手の中で
できることとなるとそんなになく、風あげは風を持って走るので健康になる、絵灯籠の方は、ただ
沿路を歩くだけではなかなか歩けないため、絵灯籠があれば沿路を歩いてみよう意識が生まれ、
歩くという点で健康になると考えました。ピカボードは健康とは関係ないかもしれませんが、
光りもののイベントなので色々なものを集めた方がより効果があると考えました。

委員：歩き回る範囲はどのくらいか、絵灯籠にしてもピカボードにしても一定の期間置きっぱなしでいけるか。

団体：歩き回る範囲は、沿路に沿って絵灯籠を 10 メートル間隔だと 100 個、20 メートル間隔だと 50
個 5 メートル間隔だと 200 個、並べられると思いますが、100 個をイメージしています。ピカボー
ドは新しくできた道路沿いにイベントやっているというのがわかるようなアイキャッチで6枚くらい
置きたいと思っていました。

期間は、お盆の時と秋分の日あたりに来る方が多いと思うので、お盆期間1週間、お彼岸のどこ
ろで1日か2日おければと思っています。もし天候上大丈夫であれば、お盆から秋分の日まで置
きっぱなしでもいいと思います。

4 議 題

以下、非公開

5 その他

<事務局からの連絡>

1、次回の審査会の開催につきまして、令和6年度実施した協働提案事業の実績報告会となります。2
月末までの事業実施期間としているため、3月の報告会を予定しておりますが、事業の実施状況に
よっては早まる場合もございます。時期が近づきましたら改めてご案内いたしますので、ご出席いた
だきますようお願いいたします。

6 閉 会

以上で令和6年度第2回名取市協働事業審査会を終了いたします。委員長はじめ、委員の皆さまお
疲れ様でした。

令和 6 年 10 月 29 日

委員長 秋月 高太郎

